

3 14

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の内容に関する照会は検閲班(内線2171、2174)  
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班(内線3169)に連絡ありたい。

電信写

08-047

大政因四旅	因務務典房
臣秘官官審審長長	ア経外查即 博代
ア経外查即 博代	大大 察位 代表
使使研審準 表	対文会厚情団
括 審察人 在儀警史	報官
報官	参内外
文	審一二
移	改对旅外
ア	審地中東
長	参北東西
米長	審二保地
中南長	参一二
欧	審西ソ洋
長	西東
長	アア
長	二
長	経途博
長	密経燕国
長	参参国安二
長	参海 密準
経協長	密開無
長	参技有理
長	密案協規
長	密経人
長	密軍社
科密	科原
調長	密調
長	密安

総番号 R199445

主管

月 4日 平成 2年 10月 4日

イラク 発 本省 着

近 2

外務大臣 殿

國枝 臨時代理大使

イラク軍のクウェイト侵攻(海部総理とラマダン第一副首相の会談:報道)

第2685号 大至急

△△◎Aイラク、クウェイト、日本、ジョルダン◎B210、220、230◎C310、380◎E4日

当国国营ラジオ△△

4日午後2時30分のバグダッド・ラジオ放送は、アンマンでの海部総理とラマダン第一副首相の会談につ

いて報じたところ、右内容次のとおり。

1. 「ラ」第一副首相は日本の海部総理との会談で、イラクが平和的な手段で湾がん危機を解決するため真げんに努力しており、政治的対話を行う用意があるものの、アラブの地に外国軍のプレゼンスがあるかぎり、イラクはいかなるアラブあるいは国際的対話も拒否する旨強調した。また、同第一副首相は、外国軍の撤退により和平達成のための積極的なふん因気が作り出されるであろうと語った。
2. 「ラ」第一副首相は、8月12日の和平提案に代表される戦争回避のためのイラクの立場を説明し、軍事的きょういが平和的解決の道を閉ざし、戦争をゆう発し、人類にとって大さん事をもたらすことになる旨強調した。
3. 海部総理は、湾がんの問題が平和的手段で解決されるべきであり、日本が2国間関係に資するやり方でイラク側と交渉を継続していきたい旨語った。
4. 会談には「ラ」第一副首相及び駐ジョルダン・イラク大使、海部総理及び同行代表団が出席した。  
ACC、GCC (除くクウェイト)、英、米、仏、独、イタリヤ、ソ連、イラン、イスラエル(トルコ)(V VVVV)、国連代に転電した。(了)